

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272000235		
法人名	(有)慈恵会		
事業所名	グループホーム やすらぎの里		
所在地	長崎県対馬市美津島町根緒7番地8		
自己評価作成日	平成25年10月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成25年11月19日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆さんがゆったりと気持ち良く、そして家庭的な安心してくつろげる空間作りや、環境美化を心がけている。又、健康面からも大事と思われる口腔ケアに特に力を入れ日々のケアを行っている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは対馬空港からほど近い国道沿いに位置している。ケアマネージャー2人体制をとることで、これまで以上に利用者本位の支援に向けた取り組みが実践されている。カンファレンスや評価に職員の関わりが増え、介護計画と経過記録の連動があり統一ケアに繋がっている。職員は各利用者のケアの視点を把握しているため、優しい言葉づかいや手を添えるなどの支援に努め、利用者の表情も和らいでいる。車椅子利用者も含め、全ての利用者が自分の役割や楽しみを見出している。職員は利用者の健康管理に口腔ケアの徹底を加えている。理念である「感謝の心、奉仕の心、敬いの心」を柱に、自身の力を最大限に発揮できるよう、職員のさりげない支援が実践され、利用者の生き活きとした笑顔あふれるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員、理念を念頭に日々のケアに取り組んでいる。	「感謝の心、奉仕の心、敬いの心」という開設時からの理念は事業所内に掲示しており、会議など折に触れ代表が説明している。職員は敬いの心をもって利用者に接し、理念を介護にあたっての目標とし、ケアの統一に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの受け入れ等して、地域との交流が持てるよう出来るだけ努力している。	利用者と地元スーパーで買い物をしたり、祭りに参加している。地域の情報は近隣在住の職員が提供している。年2回、地域ボランティアの訪問があり、行事に参加してもらったり、歌の集いに参加し他高齢者施設との交流も行っている。また、実習生の職場体験受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的な取り組みは行っていないが、要望などがあれば活かしたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議が行われ、サービスの状況や取組は報告出来ている。又意見等はサービス向上に活かしているといえる。	年6回規程のメンバーで開催している。会議では利用者の状況や行事の実施報告、その他意見交換を行っている。会議内容はホーム便りに掲載し、他の家族へ周知している。参加メンバーの会話の中から様々な情報をもらい、事業所の課題等にアドバイスをもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員とは連絡を取り、色んな情報の交換や相談等を行っている。良い協力関係は出来ている。	事業所は市担当課に介護認定更新時に利用者の生活状況を伝えたり、日頃から他施設の入退居情報を得ている。保健師やケアマネージャーとの情報交換も行っており、協力関係を築いている。職員は市主催の島内での研修に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から、施設全体で取り組んでいる事であり、職員は身体拘束に対しての正しい理解は出来ている。	事業所は身体拘束をしないケアを職員に周知徹底している。利用者の状態によっては体勢を変えたり、整容することで気をそらすよう工夫し、見守りを徹底するなど支援を行っている。職員は気付いた事をカンファレンスで話し合っている。玄関は日中開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員、注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ為の研修等の参加はないが、機会があれば学んでみたい。現在一人利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し、理解と納得は得られている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など時折意見や要望は聞いている。現在は要望等はないがあれば柔軟に対応したい。	職員は家族がホームを訪問した際や電話等で、利用者の様子を報告しており、家族が話しやすい雰囲気作りに努めている。運営推進会議参加の家族からの意見もくみ取っている。意見箱の設置と苦情相談口を重要事項説明書に明記している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議はないが、職員間のミーティングは常に行っていて、意見や要望があれば管理者が代表に上げ反映して貰っている。	日々の申し送りや必要に応じて会議を開き、職員からの意見を汲み上げている。ホットタオルマシンやレクリエーション備品購入などの職員の意見は、その都度検討し実現している。シフトの希望も聞き取り反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績や努力を把握し、各自が向上心を持てるよう条件等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等への積極的な参加を促し、自職への質を高められるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	イベントへの参加や、他事業所等との意見交換など積極的に取り組んでサービスの質を向上をさせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心身の状態を理解し、日々の生活の中で要望や不安を見つけ出し安心して戴けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	色々な話の中で困っている事や要望を聞き入れ深い信頼関係は築いているといえる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人の思いや意向を理解し、何が今必要なのかを見極めサービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、喜びや楽しみを一緒に共有し同じ目線でのケアを心がけ、安定した良好な関係が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	皆さんの思いに寄り添いながら、個々の情報を共有する事でご家族とのつながりも良好な関係が保てている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけのお店や友人との外出等出来る限りの支援を行い、関係が途切れないよう努めている。	本人や家族と会話する中で馴染みの人や場の情報を得ている。家族の協力を得て自宅付近等に外出したり、友人の訪問で一緒に出掛けて喫茶店でお茶を飲んだり、これまでの馴染みの人や場との関係継続を支援している。遠方の家族や友人とは電話や手紙を通じて交流を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係は職員一同充分把握できている。孤立しないよう常に配慮し、状況に応じた場面作りも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会に行く等して関係は大切にしている。又相談があれば応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や表情から本人の思いをくみ取り柔軟に対応しているといえる。又困難なケースはご家族等から細かく情報を得て本人本位になるよう努力している。	職員は利用者の隣に座ったり、居室でじっくり会話している。特に内気な利用者への細かな配慮を行っている。職員は利用者の体調や体力の不安などを傾聴している。意思疎通が困難な利用者には、声かけと表情から汲み取っている。職員は話しかける方法を統一し、全職員が利用者の意思を汲み上げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人、又知人等からこれまでの生活歴や生活環境、サービス歴など情報は把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の業務日誌、個別ケース記録、申し送りノート、申し送り簿等詳細に記録しており全ての職員は充分把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思の疎通が取れる方や伝達のできる方はお話しをしたり、ご家族の方からの意見を取り入れたりしている。ミーティング等で職員の意見を組み入れた介護計画を作成している。	ケアマネージャー2人体制になり、本人・家族の希望や意向の汲み上げが以前に比べ厚みを増し、計画に反映している。カンファレンスも定期的開催し、職員の意見を聴く機会が増えており、介護計画に反映させることに繋がっている。職員は介護計画をもとに統一ケアを行い、ケース記録に残し、支援経過記録を毎月家族に報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活面、精神面全てに於いて気づきや、行っている事など詳細に個別記録し職員は情報を共有している。又プランにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれる、色んなニーズに対応できるよう柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心した生活や楽しみが持てるようボランティアの方や入居者の友人や知人の協力を得ながら支援できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院に定期的な受診は出来ていて状態の変化に応じ担当医と連携をとり、適切な医療は受けられている。良い関係は保たれている。	かかりつけ医受診は職員が通院支援を行っている。受診内容は個別ノートやケース記録に記入し、職員間で共有しており、家族へ報告している。緊急時は家族に同行を依頼し、担当医の状況説明を家族と一緒に聞いている。夜間時のかかりつけ医と連携し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設に看護師はいないが、受診の際には個別ノートがあり、付き添い介助者が詳細に記録し誰が介助で同行しても分かるよう情報の共有は出来ている。又個別のケース記録にも記載している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には詳細な情報を提供している(ケアパス等)。早期に退院できるよう病院側と密に連絡を取り合い情報交換や相談が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、ご家族と話し合い、十分に説明し方針を共有している。	事業所は看取りを行わない旨を事前に家族に説明し、了解を得ている。看取りや重度化の段階に入った時点で医師、家族と話し合いの場を設けている。次の施設等への情報提供や退所後も面会に行ったり、連絡を取り、関係を継続するよう支援している。但し、重要事項説明書に記載している指針が明確ではない。	看取りに関して、口頭で説明を行っているが事業所の対応を明文化することで、利用者や家族の安心に繋がると思われる。看取りの指針の内容見直しを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の訓練を定期的に行っている。又応急処置の方法を職員がいつでも見れる場所に貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。その際署員の方に細かく指導して頂き、全職員が参加している。地域との協力体制は今の所出来ていない。	年2回消防署立会いのもと、総合訓練を実施し、うち1回は夜間想定を実施している。初期消火から火災通報、避難誘導等の指導やAEDの実技演習も行っている。消防署員からの助言をもらい、職員は方法を検討している。地域住民の訓練への参加がまだである。	事業所周辺は住民が少ない地域ではあるが、地域消防団員に協力を得るなど地域の観点を変え、消防訓練に参加してもらうことが望まれる。運営推進会議への参加等の呼び掛けも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護する上で一番大切な事であると、全職員周知し、常に心がけている。	利用者の尊厳と敬う心を重視し、居室入室時には必ず、一声掛けてから、ノックして了解を得て入室している。また、トイレ介助など羞恥心を感じさせない介助を職員間で統一した方法で支援している。職員は守秘義務を周知しており、書類管理も事務所で徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々なコミュニケーション法を活用し出来るだけ自己決定が出来るよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを大切にし、ゆったりと過ごして頂けるよう希望に沿った支援が出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	状況に合ったおしゃれや身だしなみをして頂いている。その際にも自己決定が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力にあった力を活用しながら、一緒に配膳や下膳をして頂いている。	職員が旬の食材や利用者の好みを取り入れながら献立を作っている。利用者の咀嚼力を職員は把握し、その日の献立や体調に合わせて盛りつけをしている。年2回ホテル外食や誕生日、鍋やバーベキュー等、食事を楽しむ企画をしている。毎日のお茶も生姜湯やココアなどを楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通した水分や食事摂取量を記録し充分確保できるよう支援して。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	当施設で最も力を入れている取り組みであり、毎食後、個々に応じた口腔ケアが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックは毎日の業務であり、排泄パターンは全職員把握している。一人ひとりに合わせた誘導や声掛けを行い自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンを記録し、各利用者の排泄状況を職員は把握している。利用者の様子や時間帯などから声を掛け、誘導している。日中はトイレでの座位で排泄できるよう支援している。自立に向けパッド使用の練習を行ったり、パッド軽減に向けた検討を行い、実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽運動や、食事で食物繊維や乳製品を摂って頂く事で出来るだけ自然排便が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回と決まってはいるが、気分や体調に合わせて柔軟な対応は出来ている。又ゆっくりと入浴できるよう心掛けている。	基本的に週3回入浴日を決めている。利用者によっては自ら入浴のためのタオルや着替えを準備しており、一人でゆっくり湯船に浸かれるように職員は支援している。職員の入浴支援が楽になるよう手摺やシャワーチェアを購入している。美容体操や歌を歌うなど、利用者それぞれの入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその時の状況に応じた対応をし、日中の活動を促し出来るだけ夜間睡眠がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋はファイルに綴り、職員がいつでも内容を把握できるようにしている。ケース記録や申し送りノートでも症状の変化も確認できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の食事の配膳、下膳、拭き掃除、洗濯物たたみ等個々の能力に応じた役割で楽しみや生きがい、活力に繋げる支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に配慮しながら、ご本人の希望やご家族の意向に沿えるよう散歩やお買い物、地域の催し等に出かけている。	天候や体調に配慮しながら、日々ホーム周辺を散歩している。また、外気浴を兼ねて庭で季節毎に食事やレクリエーションを企画し実行している。個別の希望に合わせた買い物やドライブ、地域イベントや花見など季節毎に遠出を支援し、外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方はおられません が、一人ひとりの力に応じて、場面によって使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などの申し出があればその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一年を通して、四季折々のお花や観葉植物など常に飾り、季節を感じて頂けるよう又心地よく過ごして頂けるような空間作りを心がけている。音や光にも常に配慮している。	リビングは自然光の柔らかい日差しになるよう、カーテンを状況にあわせ調整している。また、季節を感じられるよう植物や小物を飾っている。共有空間はいずれも整頓され快適である。利用者自らの役割を持ち、朝の清掃は職員と共にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファを配置して、皆さんがくつろげる空間を設け入居者同士でのんびりと過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんそれぞれに、馴染みの家具や使い慣れた日用品等を持参して頂き、居心地よく安心して生活して頂けるよう工夫している。	居室には利用者がくつろげるよう、ベッドの位置や高さを調節している。調度類や小物、テレビなどの電化製品も持込は自由である。毎朝職員が清掃しており、利用者も可能な限り一緒に行い心地よい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合った環境整備や、混乱を避ける為の案内紙などを貼って安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		